

平成17年度調査結果及び平成18年度調査計画案

| 調査項目                     |           | 実施機関           |   | 平成17年度                             |  | 平成18年度   |   | 備考  |                                  |
|--------------------------|-----------|----------------|---|------------------------------------|--|--|---|---|----------------------------------|
|                          |           | 林              | 道 | 調査内容                               | 調査結果概要   | 調査計画(案)  |   |   |                                  |
| 陸域生態系                    | インベントリ調査  | 昆虫相調査          |   | ○                                  |  |  |   | 次年度の調査準備  |                                  |
|                          |           | 鳥類相調査          |   | ○                                  |  |  |   | 次年度の調査準備  |                                  |
|                          |           | 繁殖鳥類分布調査       |   | ○                                  | ラインセンサスによる繁殖鳥類分布調査(知床五湖周辺)   | 調査データ解析中   |   | ラインセンサスによる繁殖鳥類分布調査(知床五湖周辺)  |                                  |
|                          |           | 中小哺乳類調査        |   | ○                                  |  |  |   | 次年度の調査準備  |                                  |
|                          | エゾシカ      | 防鹿柵内外の植生モニタリング | ○ | ○                                  | 知床岬に設置した3箇所及び森林内の二箇所防鹿柵内での植生回復状況モニタリング   | 柵内において、ガンコウランの平均株面積は、181cm <sup>2</sup> (2年前の柵設置直後は56cm <sup>2</sup> )に、また山地高草草本群落ではエゾノシシウドやカラフトニンジン等の被度・開花個体数が増加した。亜高山高草草本群落については柵設置後1年しか経過しておらず、回復対象種に大きな変化は見られなかった。   |   | 知床岬に設置した3箇所の防鹿柵内での植生回復状況モニタリング  |                                  |
|                          |           | 越冬個体数調査        |   | ○                                  | 知床岬・ルシヤ地区における冬期エゾシカ越冬個体数調査   | 2/9に調査実施済 現在データ解析中   |   | 知床岬・ルシヤ地区における冬期エゾシカ越冬個体数調査  | ※海上保安庁、知床財団の協力                   |
|                          |           | 高山帯への進出状況調査    |   | ○                                  | エゾシカの高山帯への進出状況調査   | ウイヌブナ、知床沼、知床連山、遠音別岳等で踏査を実施したところ、無雪期(夏期)のエゾシカの痕跡はあるものの、現時点では高山帯への深刻な影響は確認されなかった。  |   | 数年後に再度実施予定  |                                  |
|                          |           | シカ季節移動調査       |   | ○                                  | 遠音別、幌別、岩尾別及び知床岬地区における標識個体の季節移動調査   | 知床岬、半島中央部(幌別・岩尾別)、半島基部(オシンコシノ真鯉)で計79頭のメスシカに電波発信器を装着して追跡調査した。岬、中央部については越冬地に極めて定着した。基部については遠音別岳付近(遺産地域)を越える季節移動個体が多く確認された。   |   | 遠音別、幌別、岩尾別及び知床岬地区における標識個体の季節移動調査  | ※朝日新聞社・知床財団によりH17に知床岬越冬群への標識付け実施 |
|                          |           | 過去のエゾシカ個体群動態   |   | ○                                  | 枯損木からの年輪分析及び土壌コアからの花粉分析により、エゾシカによる過去の食圧及びシカ選好植物の変遷を調査  | 知床岬、幌別・岩尾別地区でニレ35本、イチイ15本分の年輪分析サンプルを採取したところ、ニレで最大369年生、イチイで304年生の個体が見つかった。また1800-1850年代と1910-1930年代に樹皮食いの集中が見られた。花粉分析は計8ヶ所からサンプル採取して分析中。ルシヤ地区の試料では、1000年に一度の頻度でニレの花粉量の目立った減少が見られ、昨年の予備調査(知床五湖付近の試料)と同様の傾向がうかがえる。 |   | 年輪分析及び花粉分析の補足調査   |                                  |
|                          |           | 密度操作実験予備調査     |   | ○                                  |  |  |   | 密度操作実験候補地における植生・食圧・シカ個体群等の予備調査  |                                  |
| その他エゾシカ保護管理計画策定・履行に必要な調査 |           | ○              |   |                                    |  |  | ライトセンサスや自然死調査(知床岬・ルシヤ)、広域採食圧調査等の実施(詳細は今後検討) | ※斜里町、羅臼町、知床財団等による独自の取り組みとして主要越冬地での生息動向調査(ライトセンサス、航空カウント等)、自然死亡状況調査、広域的なシカ採食圧調査等を実施中 |                                  |
| ヒグマ                      | ヒグマ生息環境調査 |                | ○ | ヒグマ標識個体の追跡結果及び分布域の植生環境から生息環境を分析する。 | H15,16のGPSデータと植生データ等を元に生息適地の解析を行った。ヒグマの生息標高帯には季節的な変化が見られ、特に夏期にハイマツを中心とする植物資源に依存していることが示唆された。 |  | 環境省調査はH17年度で終了                              | ※知床財団によりH18より調査開始   |                                  |

- 注1) ※として合同事務局以外が実施する調査についても備考の中で含めている。  
 注2) エゾシカWGと海域WGに関係する調査については、WGでの検討を踏まえてその内容や実施について判断する。  
 注3) 優先度の高い調査から実施し、必要性や予算に応じて調査項目を選定予定。

平成17年度調査結果及び平成18年度調査計画案

| 調査項目                                    |             | 実施機関 |    | 平成17年度 |   | 平成18年度  |   | 備考                                    |                     |
|---|-------------|------|----|--------|---|---|---|---------------------------------------|---------------------|
|   |             | 林    | 道環 | 調査内容   | 調査結果概要  | 調査計画(案)   |   |                                       |                     |
| 外来種                                     | 外来植物        |      |    | ○      | アメリカオニアザミをはじめとする外来植物の海岸線での侵入状況調査と重要地域の選定。アメリカオニアザミは駆除及び効果モニタリング | 対象種は判別しやすいもの5種(アメリカオニアザミ、フランスギク、ヒメスイバ、セイヨウタンポポ、コウリタンポポ)に絞り、新測地系UTMの1kmメッシュ単位で確認された個体数を7段階評価した。その蔓延が最も懸念されるアメリカオニアザミは人の利用が多い幌別・岩尾別、道道知床公園線沿い、知床岬に多いが、羅臼側にはほとんど見られなかった。他の4種も基本的には上記の地域に分布が見られるが、個体数はアメリカオニアザミほど多くなかった。西側(斜里側)の知床岬からルシャまでの海岸線はもともと外来種の侵入の見られない地域 | アメリカオニアザミの駆除及び効果モニタリング(継続)                    |                                       |                     |
|   | 外来動物(アライグマ) |      |    | ○      | アライグマを対象に、侵入状況調査、被害状況調査を行うとともに、駆除方策を検討する                        | 24地点に罠28個を21日間設置し、結果ミンク <sup>2</sup> /頭捕獲   | アライグマを対象に、侵入状況調査、被害状況調査を行うとともに、状況に依りて駆除を実施する。 |                                       |                     |
|   | その他外来生物     |      |    | ○      | 知床連山登山道等におけるセイヨウオオマルハナバチの侵入状況調査<br>道路沿いにおけるジキタリス等外来植物の除去        | 在来マルハナバチのみ確認  | セイヨウオオマルハナバチ、ジキタリス等の遺産地域内での分布状況把握及び簡易な駆除      |                                       |                     |
| 陸域生態系                                   | 希少種         |      |    | ○      | シマフクロウ  | 繁殖個体数の確認、標識調査   | 知床周辺では生息・繁殖状況は安定                              | 繁殖個体数の確認、標識調査                         |                     |
|   |             |      |    | ○      | オオワシ・オジロワシ  | 傷病鳥獣の保護収容   | 本年度は知床周辺で生体の保護事例なし。                           | 保護増殖分科会の議論を踏まえて検討                     | *中川委員らにより一斉個体数調査実施中 |
| 植物                                      | 希少植物群落      |      |    | ○      | 海岸線、河川沿いにおけるガンコウラン等希少植物群落分布状況調査                                 | 74ヶ所の群落に121種(科・属まで同定されたものを含む)が確認され、うち20ヶ所にRDB種(環境省・北海道)7種いずれかが存在した。全体を通して、土壌が未発達な岩峰上に見られるガンコウラン群落のような風衝群落のレフュージアは多いが、セリ科草本・イブキトラノオ・ナガバキアザミの確認個体数が少ないことから、土壌の発達が必要と思われるこれら高茎草本群落はレフュージアがあってもかなり小規模と思われた。   | 追加の調査項目を検討                                    |                                       |                     |
|   | 植生図作成       |      |    | ○      | 空中写真及び植生調査により1/25000の植生図を作成                                     | 写真判読及び現地調査による植生図作成作業が進行中。   | H17年度中に完成予定。                                  |                                       |                     |
|   | 利用庄によるインパクト |      |    | ○      | 知床沼周辺の植生概況調査  | 知床沼北沼の北岸(野営跡地あり)に3つの方形区を設けて植生調査を行なったところ、ナガバシノワレモコウやミネリハイほか25種が確認された。一部のテントはこの植生上に設置されており、2つの方形区では、テント設置の影響を受け地上部が倒伏している株が多くみられた。また、知床沼の北沼と南沼の周辺では小規模湿地を縫う様に踏み跡が形成されていた。   | 登山道沿いの植生モニタリング                                | ※石川委員・工藤委員・高橋委員が知床連山縦走路沿いの概況調査をH17に実施 |                     |
| その他、(国、道だけでなく町や各研究者等が実施していく様々な調査・研究を含む) |             |      |    |        |   |   |   |                                       |                     |

注1) ※として合同事務局以外が実施する調査についても備考の中で含めている。  
 注2) エゾシカWGと海城WGに関係する調査については、WGでの検討を踏まえてその内容や実施について判断する。  
 注3) 優先度の高い調査から実施し、必要性や予算に応じて調査項目を選定予定。

平成17年度調査結果及び平成18年度調査計画案

| 調査項目                                    |     | 実施機関         |   |   | 平成17年度 |  | 平成18年度   | 備考                                       |   |
|---|-----|--------------|---|---|--------|--|--|--|---|
|   |     | 林            | 道 | 環 | 調査内容   | 調査結果概要                                   | 調査計画(案)  |  |   |
| 陸水域生態系                                  | 調査  | 淡水魚類相調査      |   | ○ |        | 外来魚分布調査                                  | 知床半島主要6河川におけるブラウントラウトの生息調査を行ったが、生息は確認されなかった。                                   |  |   |
|   | 河川  | サケ科魚類遡上状況調査  |   | ○ |        | 主要19河川におけるサケ科魚類遡上状況調査                    | 対象19河川においてシロザケ・カラフトマス・サクラマスを対象に資源量の推定や産卵床の調査を行うとともに稚魚調査により再生産の現況の把握を行う。(現在調査中) | 主要25河川におけるサケ科魚類遡上状況調査                    |   |
|   | 河川  | 河川工作物の影響評価   | ○ | ○ |        | WGの意見を踏まえて河川工作物の影響評価に資するための調査(河川環境、土砂動態) | イワウベツ・サシルイ・オッカバケ・モセカルベツ・ケンネベツ・ルシャ川の河川動態・土砂動態調査を行った                             | WGの意見を踏まえた河川工作物の影響評価に資するための調査(河川環境、土砂動態) |   |
|   | 生態系 | 海域から陸域への栄養還元 |   |   | ○      |  |  |  | 海域からの栄養が、どの程度陸域に還元されているか、海洋由来の窒素に注目して調査する。土壌、樹木のサンプルの他、河川の水サンプルも考えられる。(詳細は今後検討) |
|   | 生態系 | 陸域から海域への栄養供給 |   |   | ○      |  |  |  | 代表的な河川を選び、季節毎に河川から海へ流出する栄養塩類やシルト分等の調査を行う(詳細は今後検討)                               |
| その他、(国、道だけでなく町や各研究者等が実施していく様々な調査・研究を含む) |     |              |   |   |        |  |  |  |   |

- 注1) ※として合同事務局以外が実施する調査についても備考の中で含めている。  
 注2) エゾシカWGと海域WGに関する調査については、WGでの検討を踏まえてその内容や実施について判断する。  
 注3) 優先度の高い調査から実施し、必要性や予算に応じて調査項目を選定予定。

平成17年度調査結果及び平成18年度調査計画案

| 調査項目                                    |                      | 実施機関    |   |   | 平成17年度 |   | 平成18年度  | 備考  |                       |
|---|----------------------|---------|---|---|--------|---|---|---|-----------------------|
|   |                      | 林       | 道 | 環 | 調査内容   | 調査結果概要  | 調査計画(案)   |   |                       |
| 海域生態系                                   | イベント<br>トリ調査         | 海の生物相調査 |   |   | ○      |   | 海岸沿いに存在する浅海性の生物相についての既存データ整理及一部調査(詳細は今後検討)  | ※知床博物館により魚類相調査を実施済  |                       |
|   |                      | 海草・海藻調査 |   |   | ○      |   | 浅海域の主要藻場における海草・海藻類の既存データ整理及び一部調査(詳細は今後検討)   | ※羅臼側では羅臼漁協が調査実施中  |                       |
|   | 海鳥類                  | 海鳥類調査   |   |   | ○      |   | 海鳥生息数、繁殖個体数のモニタリング  | ※知床海鳥研究会によりモニタリングを実施中   |                       |
|   | 海棲哺乳類                | 海棲哺乳類調査 |   |   | ○      | 知床半島羅臼側近海における海棲哺乳類(アザラシ)の移動状況、分布状況等の調査  | ラインセンサス・混獲死体の回収及び被害実態聞き取り調査、個体識別調査、生息状況の把握調査を行い、アザラシ類の個体数及び分布域について詳細なデータを収集する。(現在調査中) | H18年結果を勘案して地点を絞り込んでの定点調査(隔年)  | ※海上保安庁、小林委員により航空調査実施済 |
|   | 魚介類                  | 漁業資源調査  |   |   | ○      | 主要な魚介類の漁獲統計調査・資源量調査・生息環境調査等の実施  | 調査が項目が多岐にわたるため、結果省略   | 主要な魚介類の漁獲統計調査・資源量調査・生息環境調査等の実施  | ※漁協等により様々な調査を実施中      |
|   | 生態系                  | 海域生産性   |   |   | ○      | ○   |   | 流氷がもたらす栄養による植物・動物プランクトン発生過程の解明(詳細は今後検討)                                       |                       |
|   |                      | 海洋環境調査  |   |   |        | ○   |   | 水温・水質等の定点観測及び航空写真解析(詳細は今後検討)  |                       |
| その他海域管理計画策定及び履行に必要な調査                   |                      |         |   | ○ | ○      |   | 海域WG等での意見を踏まえ、調査の詳細について今後検討   |   |                       |
| その他、(国、道だけでなく町や各研究者等が実施していく様々な調査・研究を含む) |                      |         |   |   |        |   |   |   |                       |
| 知床アトラス                                  | データベースの整理及びGIS等による統合 |         |   |   | ○      | 海域と陸域を一体的に保全していくため、異分野間で情報の共有を図る。既往文献等データの整理のほか、研究者の持っていないデータ(漁協等)の入手も含まれる。また、陸域及び海域の自主規制も含めた各種規制情報、河川工作物の位置、利用の実態等の社会情報、動植物の分布、漁業資源情報の各種自然情報の図化し、統合する。 | 文献・各種規制や自然情報等の地理情報・調査情報についてデータベースを構築中。河川工作物・海域規制・エゾシカについてはWeb-GISでデータを統合。詳細は別途報告。     | 前年度に作成された植生図、自然環境、社会情報等の追加情報や前年度までの各種モニタリング等調査結果を追加し、必要に応じて各種計画策定に必要な図面を提供する。 |                       |
|   | モニタリング指標の開発          |         |   |   | ○      | 既存の各種課題や因果関係の図化・整理をする。  | 現在作成中   | 上記調査を踏まえて、遺産地域の自然環境を適切に管理する上で重要な指標や水準を開発する。                                   |                       |

注1) ※として合同事務局以外が実施する調査についても備考の中で含めている。  
 注2) エゾシカWGと海域WGに関係する調査については、WGでの検討を踏まえてその内容や実施について判断する。  
 注3) 優先度の高い調査から実施し、必要性や予算に応じて調査項目を選定予定。